

奈良教育大学  
NARA UNIVERSITY OF EDUCATION

## 小中一貫教育の現状 及び成果と課題

小柳和喜雄  
(2013.5.12)  
oyanagi@nara-edu.ac.jp

奈良教育大学  
NARA UNIVERSITY OF EDUCATION

### 小中一貫教育が言われてきた背景 と小中一貫校が設置されてきた様々な事情

教育の論理      経済・街づくり政策の論理

**中1ギャップ**  
不登校・学力問題他

特色を持つ学校の設  
置 (内容・年限・学校  
階梯の工夫)

市町村合併の動き

耐震構造・  
校舎老朽化

町づくりと教育費

子どもの数の現象  
学校の維持の問題

公立校での義務教育  
のパワーアップ

奈良教育大学  
NARA UNIVERSITY OF EDUCATION

### 例)なぜ異校園連携・小中一貫か? 教育の論理から

幼稚園      保育園

↓

小学校

↓

中学校

↓

卒業後の姿→就職・高等学校等における学びの姿

縦にいくい壁・ギャップ

大規模・中規模

小規模

横のつながりの壁

他の学校と友達との関係づくりにおけるポジション作りの壁

縦のつながりの壁

部活動等を通じた先輩後輩の壁

教育方法の壁

学級担任と教科担任

取り扱う言葉・用語の壁

教育観・教育方法の違いの壁

評価方法の壁

定期考査などあるまとまった力が試され評価される壁

勉強の仕方の壁、リーダー性・協力協調性の壁、自信と誇りと将来の見通しの壁。。。

奈良教育大学  
NARA UNIVERSITY OF EDUCATION

1/小中が一体あるいは隣接している場合

中学校

↑

小学校

対 中1問題

- 教科担任の壁
- 評価方法の壁

対 共通する課題の克服に向けて

①児童・生徒の日常交流

②従来の教育課程の見直し

③兼務 (ローテネータ設置、教科担当者、あるいは全員)

④教室環境の柔軟な活用

⑤カリキュラム連携

a)新教科を設置しそれを中心に

b)既存のある教科で

c)全教科で

d)特別活動で

⑥教育方法の連携

⑦評価方法の連携

1/小中が地理的に少し離れている場合

中学校

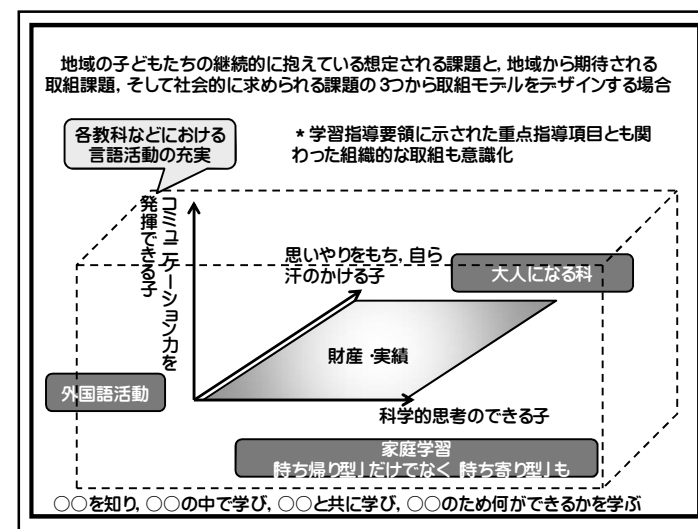
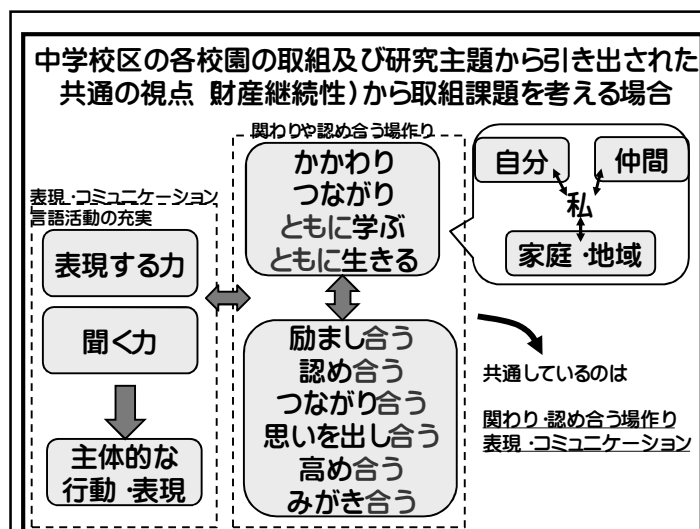
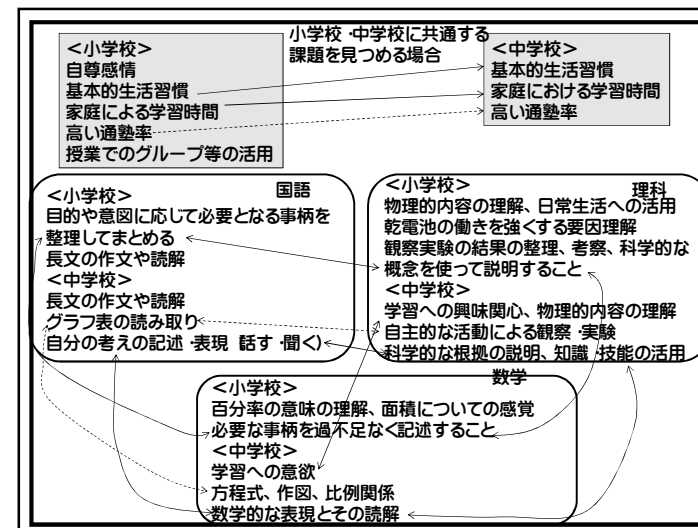
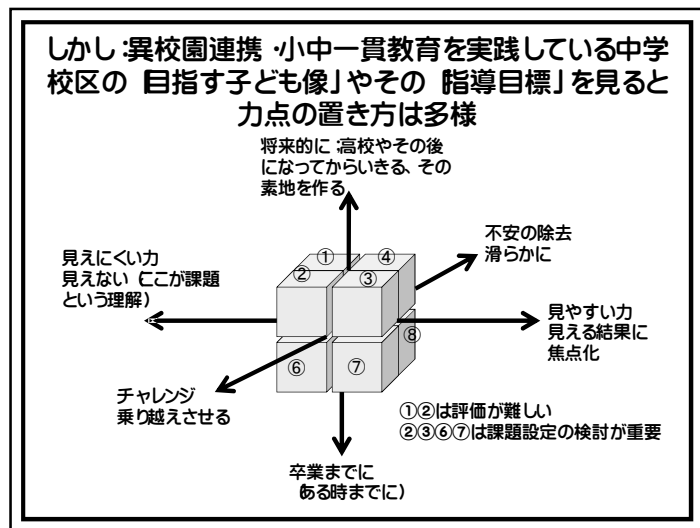
↑

小学校

対 中1問題

- たての壁
- 教科担任の壁
- 評価方法の壁

対 共通する課題の克服に向けて



ATC21S (Assessment & Teaching of 21st-Century Skills) <http://atc21s.org/>

「これからの子どもたちに求められる力」として世界的に関心が寄せられている取組課題

- ATC21Sの概要
  - Intel, Cisco, MicrosoftのIT企業3社が主導する国際的なプロジェクト。メルボルン大学を中心に、各国の60機関250人以上の研究者が参加し、2009年に開始。
  - **21世紀型スキル**
- ATS21Sは、21世紀型スキルを以下の4つのカテゴリとして定義

<b>Way of thinking</b> Creativity 創造力 Critical thinking 批判的思考力 Problem-solving 課題解決 Decision-making and learning 学び方の学習、意思決定	<b>Tools for working</b> Information and communications technology (ICT) 情報を使いこなす力 Information literacy 情報通信 (ICT) リテラシー
<b>Way of working</b> Communication コミュニケーション Collaboration コラボレーション (チームワーク)	<b>Skills for living in the world</b> Citizenship 地域と国際社会での市民性 Life and career 人生とキャリア設計 Personal and social responsibility 社会の中での個人としての責任感

### 取組の実例：小中学校のより効果的な接続のため、小中学校の教員が協働して「学びのてびき」を配布 説明

**「学びのてびき」について**

本年度より小中一貫教育に取り組んでいます。この「学びのてびき」は、その取組の一つとして、小学校の先生と中学校の先生が何回も話し合い、協力してつくったものです。

中学校に入学するに当たって、特に学習や授業については、小学校と中学校の違いや難しさなどに不安や心配を感じている人もいます。そこで、そんなみなさんの気持ちも少しでも軽くなって、4月からの中学校生活のスタートが切れるようにと、この「学びのてびき」をつくりました。

「学びのてびき」には、先生たちの「学習するときにはこんなことに気をつけてがんばってほしいな」という、みなさんへの願い、思いが詰まっています。

今日から中学校入学まで、そして中学1年生のときも、いつも身近において、読んで、書いてあることを実行したりしていきましょう。

○「学びのてびき」の使い方

【教科名】とは 各教科の学習内容の特徴が書いてあります。

【1年生になる前に】 中学校に入学するまでに身につけておいてほしいことが書いてあります。

【学習のアドバイス】 その教科を学習するときに気をつけてほしいことが

**部分改訂。11月に配布し小学校担任が説明、中学校体験授業で中学校教員が説明。入学後、最初の授業で活用。**

## メリット、デメリットと言われていること

デメリットと思われることも、まず、①過渡期のものか、②その場固有の問題か、③本質的な問題か、を分けて考えていく必要があるのではないかと

デメリットも取組の工夫でメリットに転じることが多い。逆に、メリットと思われることも取組によってはデメリットに変わる場合もあることに注意する。

- 小学校から中学校まで9年間も同じ学校で過ごす、メリハリがなく緊張感のない学校生活になるのでは？
- 高等学校への入学時にギャップに困る生徒が出てくるのではないかと？
- 6年生が育たなくなる、中学デビューができなくなる、中学生が小学生化するのでは？
- 準備などで教員の負担が増し、子どもと過ごす時間が減って少なくなるのでは？
- 通学区域拡大、小学校区の地域性が失われるのでは？ 施設・グラントが自由に使えなくなるのでは？

